

H26

中核

1-②

平成26年度「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進」事業 実績報告書

1. 分野名

①環境・エネルギー

「その他」分野名

2. 事業名称

環境・エネルギー分野における中核的専門人材養成プログラム開発事業 自動車整備職域プロジェクト

3. 産学官コンソーシアム又は職域プロジェクトの別

産官学コンソーシアム		<input type="checkbox"/>
職域プロジェクト	(1) 全国的なモデルカリキュラム等の開発・実証	<input type="checkbox"/>
	(2) 「地域版学び直しプログラム」の開発・実証	<input type="checkbox"/>
	(3) 高等学校・高等専修学校と高等教育機関との連携による実践的職業教育	<input type="checkbox"/>

※実施した取組いずれかひとつに「○」を記入すること。(大学院プログラムは別様式)

「女性の学び直し」に対応する場合、右欄チェック

■ 代表法人(申請法人)等

法人名	学校法人 小小学園
理事長名	山本 匡
学校名	専門学校東京工科自動車大学校
所在地	〒164-0001 東京都中野区中野6-21-16

■ 事業責任者(事業全体の統括責任者)

職名	校長
氏名	佐藤 康夫
電話番号	03-3360-8824
E-mail	satoyasu@tera-house.ac.jp

■ 事務担当者(文部科学省との連絡担当者)

職名	東京工科グループ企画部 部長
氏名	開田 実
電話番号	03-3360-8827
FAX番号	03-5337-6250
E-mail	hirakida@tera-house.ac.jp

5. 産学官連携コンソーシアム又は職域プロジェクトの構成員・構成機関等

(1) 構成機関(機関として本事業に参画する学校・企業・団体等)

	構成機関(学校・団体・機関等)の名称	役割等	都道府県名
1	学校法人小小学園 専門学校東京工科自動車大学校	プロジェクト代表	東京
2	学校法人小小学園 専門学校東京工科自動車大学校世田谷校	カリキュラム開発・実証	東京
3	学校法人小小学園 東京工科専門学校品川校	カリキュラム開発・実証	東京
4	学校法人小小学園 専門学校東京テクニカルカレッジ	カリキュラム開発・実証	東京
5	専門学校読売自動車大学校	カリキュラム開発・実証	東京
6	専門学校新潟国際自動車大学校	カリキュラム開発・実証	新潟
7	専門学校越生自動車大学校	カリキュラム開発・実証	埼玉
8	神奈川工科大学 創造工学部	カリキュラム開発・実証	神奈川
9	帝京大学 理工学部	カリキュラム開発・実証	栃木
10	学校法人吉田学園 北海道自動車整備大学校	カリキュラム開発・実証	北海道
11	堀越高等学校	カリキュラム開発・実証	東京
12	東京都立総合工科高等学校 自動車科	カリキュラム開発・実証	東京
13	いすゞ車体株式会社	カリキュラム開発・実証	神奈川
14	いすゞ自動車株式会社	カリキュラム開発・実証	神奈川
15	日産自動車株式会社 サービスエンジニアリング部	カリキュラム開発・実証	神奈川
16	ネットヨタ横浜株式会社	カリキュラム開発・実証	神奈川
17	職業能力開発総合大学校基盤整備センター	カリキュラム開発・実証	東京
18	一般社団法人環境教育振興協会	カリキュラム開発・実証	東京
19	丸星株式会社 ソリューション営業部	カリキュラム開発・実証	東京
20	株式会社スズキ自販東京 サービス部	カリキュラム開発・実証	東京
21	日刊自動車新聞社	カリキュラム開発・実証	東京

(2) 協力者等(委員など個人で本事業に参画する者等)

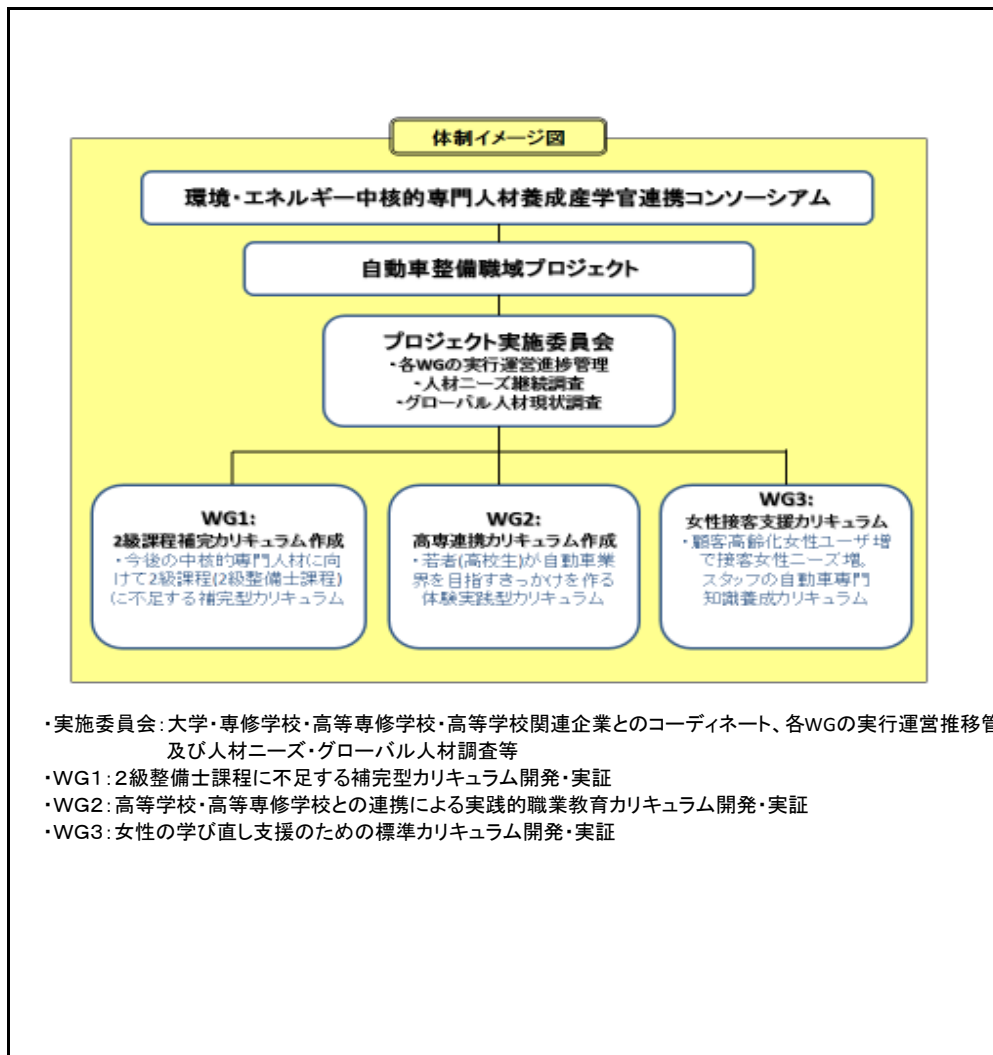
氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
谷川 潮	いすゞ車体株式会社・社長補佐	カリキュラム開発・実証	神奈川
高原 正雄	いすゞ自動車株式会社・理事	カリキュラム開発・実証	神奈川
菅原 三男	株式会社スズキ自販東京・サービス部長	カリキュラム開発・実証	東京
コプフ・ピエール	株式会社オクタル・ジャポン・代表	ベンチャー人材ニーズ	東京
高橋 賢治	日刊自動車新聞社・関東支社長	人材アドバイス	東京
篠原 孝之	日刊自動車新聞社・次長	人材アドバイス	東京
澤口 保志	学校法人吉田学園 北海道自動車整備大学校・事務部 部長	カリキュラム開発・実証	北海道
新井 司	専門学校越生自動車大学校・教育部長	カリキュラム開発・実証	東京
宮崎 勝美	専門学校越生自動車大学校・自動車整備科科长	カリキュラム開発・実証	東京
油井 文江	株式会社ゆいアソシエイツ・代表	カリキュラム開発・実証	東京
斎藤 弘二	丸星株式会社・ソリューション営業部部长	カリキュラム開発・実証	東京
三上 孝明	専門学校東京テクニカルカレッジ・校長	カリキュラム開発・実証	東京

(3) 下部組織（設置は任意）

名称(実施委員会)			
氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
佐藤 康夫	専門学校東京工科自動車大学校・校長	全責任者	東京
竹尾 和也	東京工科専門学校品川校・校長	WG1リーダー	東京
小林 完	専門学校東京工科自動車大学校世田谷校・校長	WG2リーダー	東京
山口 泰之	専門学校東京工科自動車大学校・校長代行	WG3リーダー	東京
武井 和則	東京工科専門学校品川校・教務部長	WG1副リーダー	東京
澁谷 健	専門学校東京工科自動車大学校世田谷校・教務部長	WG2副リーダー	東京
開田 実	東京工科グループ企画部長	プロジェクト事務局	東京
金澤 晃男	専門学校東京工科自動車大学校 事務長	WG事務局	東京
名称(学び直しWG1)			
氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
佐藤 康夫	専門学校東京工科自動車大学校・校長	全責任者	東京
竹尾 和也	東京工科専門学校品川校・校長	WG1リーダー	東京
武井 和則	東京工科専門学校品川校・教務部長	WG1副リーダー	東京
金澤 晃男	専門学校東京工科自動車大学校・事務長	WG事務局	東京
伊藤 清文	専門学校東京工科自動車大学校	カリキュラム開発・実証	東京
蓮田 誠	東京工科専門学校品川校 自動車整備科 主任	カリキュラム開発・実証	東京
佐藤 岳人	東京工科専門学校品川校 自動車整備科 教員	カリキュラム開発・実証	東京
向野 直樹	東京工科専門学校品川校 自動車整備科 教員	カリキュラム開発・実証	東京
榎本 俊弥	専門学校読売自動車大学校 校長	カリキュラム開発・実証	東京
狩野 芳郎	神奈川工科大学 創造工学部	カリキュラム開発・実証	神奈川
三橋 健一	元日産自動車研究職	カリキュラム開発・実証	神奈川
長澤 浩二	東京工科自動車大学校世田谷校 講師(工学博士)	カリキュラム開発・実証	東京
三浦 一郎	専門学校新潟国際自動車大学校・校長	カリキュラム開発・実証	新潟
青木 昭夫	帝京大学 理工学部・工学博士	カリキュラム開発・実証	栃木
柿崎 勇晃	ジャンクナイツガレージ・代表	カリキュラム開発・実証	神奈川
鳥濱 博	職業能力開発総合大学校基盤整備センター	カリキュラム開発・実証	東京
木村 太一	株式会社ケイビーマシニング・EV事業部主任	カリキュラム開発・実証	神奈川
深澤 秀治	一般社団法人環境教育振興協会・理事	カリキュラム開発・実証	東京

名称(高等学校・高等専修学校WG2)			
氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
佐藤 康夫	専門学校東京工科自動車大学校・校長	全責任者	東京
小林 完	専門学校東京工科自動車大学校世田谷校・校長	WG2リーダー	東京
澁谷 健	専門学校東京工科自動車大学校世田谷校・教務部長	WG2副リーダー	東京
金澤 晃男	専門学校東京工科自動車大学校・事務長	WG事務局	東京
菅井 充	専門学校東京工科自動車大学校世田谷校 自動車整備科 科長	カリキュラム開発・実証	東京
浅井 恵一	専門学校東京工科自動車大学校世田谷校	カリキュラム開発・実証	東京
井上 真一	専門学校東京工科自動車大学校世田谷校	カリキュラム開発・実証	東京
小俣 雅史	東京都立総合工科高等学校 自動車科教諭	カリキュラム開発・実証	東京
市川 剛士	専門学校越生自動車大学校 副校長	カリキュラム開発・実証	埼玉
伊藤 俊行	堀越高等学校・校長	カリキュラム開発・実証	東京
斎藤 充	堀越高等学校	カリキュラム開発・実証	東京
加藤 豪	学校法人小山学園 広報本部	カリキュラム開発・実証	東京
名称(女性学び直しWG3)			
氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
佐藤 康夫	専門学校東京工科自動車大学校・校長	全責任者	東京
山口 泰之	専門学校東京工科自動車大学校・校長代行	WG3リーダー	東京
金澤 晃男	専門学校東京工科自動車大学校・事務長	WG事務局	東京
松村 道隆	専門学校東京工科自動車大学校・自動車整備科科长	カリキュラム開発・実証	東京
牛丸 泰弘	専門学校東京工科自動車大学校 エンジンメンテナンス科	カリキュラム開発・実証	東京
羽鳥 芳裕	専門学校東京工科自動車大学校自動車整備科	カリキュラム開発・実証	東京
菅原 耕太	専門学校東京工科自動車大学校自動車整備科	カリキュラム開発・実証	東京
戸塚 真理	学校法人小山学園 広報本部	カリキュラム開発・実証	東京
茂木 君之	中小企業診断士	カリキュラム開発・実証	東京
福本 俊一	ネットトヨタ横浜株式会社・総務部人事室室長	カリキュラム開発・実証	神奈川
大林 祐美	株式会社CS&ESコンサルティング・代表	カリキュラム開発・実証	東京

(4)事業の実施体制図(イメージ)



- ・実施委員会: 大学・専修学校・高等専修学校・高等学校関連企業とのコーディネート、各WGの実行運営推移管理及び人材ニーズ・グローバル人材調査等
- ・WG1: 2級整備士課程に不足する補完型カリキュラム開発・実証
- ・WG2: 高等学校・高等専修学校との連携による実践的職業教育カリキュラム開発・実証
- ・WG3: 女性の学び直し支援のための標準カリキュラム開発・実証

6. 事業の内容等

(1) 事業の目的・概要

現在の自動車を取り巻く産業構造やインフラは、車の基本構造や使用燃料及びユーザーのライフスタイルに合わせて、産業自体が自動車という製品に直結している。その自動車は、環境・エネルギーの対応だけでなく、技術的な部分をはじめとする人々の生活スタイルや意識を含めたイノベーションの推進を行政との関わりを含め変化が求められている。

また、環境・エネルギー分野の将来における新たな仕事の内容は流動的であり、多様化することが昨年のプロジェクト事業からも明らかとなっている。明確な仕事の内容という観点ではなく、今後の産業の動向から必要となる知識・技術・資格等を中心にその教育カリキュラムを作成し、実施検証を行う。また、高校生を中心とした若者に対し、自動車の職業目指すきっかけを作るキャリアプランの提示と体験実践的なカリキュラム開発と、女性が自動車業界で活躍するために必要な学び直しカリキュラムの開発を行い、その普及を図ることを目的とする。

(2) 事業の実施意義や必要性について

①当該分野における人材需要等の状況、それを踏まえた事業の実施意義

○環境エネルギー分野の将来における新たな仕事の内容は流動的であり、多様化する模様。

○将来の自動車の主流がEVかHVかPHVか、あるいはクリーンエネルギーかは、エネルギー密度の関係、コストの関係等があり、当面はバッテリー開発などの技術的課題の解決がその方向性の鍵となる。当面は電気を中心とした多様なエネルギーを使用した自動車が用途に合わせ混在する可能性が高く、既存の技術・知識では不足することが予想される。

○多様化するエネルギー(燃料)の取り扱いに対し既存の自動車整備教育に不足しているもの

- ・電気自動車の取り扱い、安全作業知識。
- ・低電圧(600V以下)自動車の取り扱い、電気回路作業知識、技術。
- ・クリーンエネルギーとして使われる燃料の安全性を主とした取り扱い知識。

②取組が求められている状況、本事業により推進する必要性

アンケート調査結果から、各職域において企業単独でが独自に省エネ等、環境・エネルギー分野への取り組みを行っていることが読み取れる。

つまり、広範囲な環境・エネルギー関連事項を系統的に自動車職域以外の建築・土木・設備といった職域等においてもにおいて、必要な方向性を示すことができる人材の育成が求められているということである。

アセッサーレベルの上にプランナーレベル、さらにはエキスパートレベルという段階的に技術者レベルを設定することは、職域特性を生かしながら、他職域を横断する環境・エネルギー分野の専門知識を兼ねて持つことによる相互連関を推進することが可能となり、スマートグリッド化の推進に寄与することが想定できる。

言い換えれば、自動車整備分野の専門知識・技術を有しながら環境・エネルギー分野の専門教育を付加された人材が、その推進に対して中核的な役割を担っていくことが容易に想定されると言える。

次世代エネルギーに関して、また省エネ化推進等によるカーボンゼロを目指す国家戦略に答えるためにも、インフラ整備や街づくり、建物づくり等に関わるスマート化推進において、段階的に専門知識を得ていく仕組みづくりが求められている。

(3)前年度までの取組概要・成果と本事業との継続性

<p>(平成23年度事業)</p> <ul style="list-style-type: none">・取組概要 ・事業成果 ・24年度事業との継続性(成果の活用含む)
<p>(平成24年度事業)</p> <ul style="list-style-type: none">・取組概要 ・事業成果 ・25年度事業との継続性(成果の活用含む)
<p>(平成25年度事業)</p> <ul style="list-style-type: none">・取組概要 アンケート調査自動車関連企業3,000社発送、回答数307社、回収率10.2% 横浜市、さいたま市、豊田市へ視察・ヒアリング調査の実施 ・事業成果 アンケート調査(クロス集計・分析)①特化した技術力、②特化した技術を持つ者を指導・管理する能力、③特化した技術を持つ者を指導する能力の結果は以下の通りとなった。 ○現在に業務においての必要な知識レベルは①26.8%、②14.2%、③9.2%であり、技術・技能レベルは①29.5%、②13.4%、③8.8%。 ○今後最も重要となる次世代自動車動力力においての中核的人材に必要な知識レベルは①24.3%、②23.6%、③18.1%であり、技術レベルは①25.1%、②19.7%、③20.1%。 ○今後最も重要となる次世代自動車エネルギー源においての中核的人材に必要な知識レベルは①23.9%、②23.7%、③19.7%であり、技術レベルは①25.2%、②22.1%、③20.2%。 現在の業務での必要とされる特化した知識レベル、技術・技能レベルは50%超であるが、次世代自動車での必要な知識レベル、技術レベルは、60%を超えており、高いニーズを示している。 ・本年度事業との継続性(成果の活用含む) アンケート結果からも分かる通り、今後の次世代における動力源やエネルギー源を対象とした場合特化した技術力は60%超え、指導能力は40%超えを要する声があったことを鑑み以下の内容を実施する。 ①各教育項目に対する教育カリキュラム内容の検討及びコマシラバスの作成 ②教育カリキュラムの精度を上げるための更なる産業界の調査 ③教員のFDプログラムとその認証モデルの構築 ④専門学校既存教育へのプラスだけではなく、社会人の学び直しなど多岐に亘る教育モデルケース作成 ⑤自動車業界のグローバル化に向けた技術者育成調査(海外派遣、留学生の技術者育成プログラム開発)。

(4)事業の成果目標・達成状況

<p>①事業計画書に記載されている活動指標(アウトプット)・成果目標及び成果実績(アウトカム)</p> <p>【活動指標】(アウトプット)</p> <p>全国的な標準カリキュラム等の開発を行うために、アンケート調査及び視察調査先:横浜市、さいたま市、豊田市の取り組みを参考に2級整備士課程の教育内容で不足するものについての補完教育を中心に学び直しカリキュラムの開発を行う。また、高等学校・高等専修学校との連携による実践的職業教育、女性の学び直し支援教育のカリキュラム開発を目標とする。</p> <p>合計3つの講座を各WGで開発し、実施委員会での評価をするとともに質の保証の可視化として、シラバス・コマシラバス、授業シート、授業カルテ、授業カルテ解答・解説、テキスト等の作成し、実証講座を実施する。</p> <p>【成果目標及び成果実績】(アウトカム)</p> <p>この分野は仕事の内容は流動的であり、多様化することから以下のカリキュラム構築を実施する。</p> <p>①エネルギー・燃料の次世代エネルギーにおいて中核となり活躍できる特化した知識と技術レベルを養成することが求められてきており、現在の整備士課程において不足となる部分を補完した学び直し講座の実施。</p> <p>②また、高等学生や高等専修学生を対象にした、実践的職業教育カリキュラムの実施による自動車業界を目指す若者掘り起こすことで業界の活性化に繋げる。</p> <p>③更に、女性が自動車業界で活躍できるカーコンシェルジュ講座を実施し、再就職支援として実施する。</p> <p>①2級整備士課程の実証講座:専門学校生(LV3~4、8時間、20名)</p> <p>②高等学校・高等専修学校実践的職業教育講座:高等学生・高等専修学生(LV1~2、4時間、20名)</p> <p>③女性学び直し実証講座(カーコンシェルジュスタッフ養成):女性(LV2~3、8時間、20名)</p> <p>②上記目標等に対する達成等状況</p> <p>②-1. 2級整備士課程において不足となる補完した学び直し教育については、66.6%が受講前に低い知識レベルであるとのアンケート回答があったが、受講後アンケートでは全員から知識レベルが向上したとの回答が得られた。また、受講前に低いレベルという回答があったLi-ion(リチウムイオン)電池や安全面の整備技術にしても、受講後は、88.3%と82.3%が身に付いたとの回答が得られ、内容としては成功といえる。</p> <p>②-2. 高等学校との連携による、自動車への興味を高めることを目的とした講座である。結果として講座内容の進行に課題が出たものの、将来の職業として「考えられる」との回答が10%上昇した。取り組みとしては成功といえる。</p> <p>②-3. 自動車業界で活躍できる基礎講座である。結果として、受講後アンケートによると、全員が満足して講座を修了したことから成功といえるが、受講者から「自動車業界の知識」、「自動車の構造・機能」をこの先も深く学びたいという姿勢があることから、今後、ブラッシュアップした内容が必要である。</p>
--

【各回詳細】

・第1回環境・エネルギー分野全体会議

日 時:平成26年7月10日 18:00~20:00

参加者:44名(総勢91名)

議 題:1)本事業代表者挨拶、2)文部科学省より事業説明、3)産学官連携コンソーシアム事業説明、4)各職域プロジェクト事業説明(建築・土木・設備職域プロジェクト、自動車整備職域プロジェクト、電気・電子・設備及び情報・通信職域プロジェクト)、5)その他(意見等)

・第1回 実施委員会会議

日 時:平成26年9月1日 18:00~20:00

参加者:8名

議 題:1)環境・エネルギー分野における中核的人材養成プログラム開発事業概要:全体のスケジュール(行程)9月~2月、2)事業計画(今後の進め方):分科会(WGの委員長、及び委員の確認等)、WGの第1回会議に向けて、会議内容 重視事項(次第に反映)、配布資料(次第、名簿、事業概要、コマシラバス、授業シート等)、開催に向けての進捗状況

・第1回 学び直しWG1会議

日 時:平成26年9月12日 18:00~20:00

参加者:18名

議 題:1)モデルカリキュラム(模擬授業)作成の流れと実施計画:専門学校2級課程の内容を補完したカリキュラム内容、シラバスの検討……(WG1授業計画書内参考)、模擬授業時 時間・受講対象者・受講人数、2)担当者の選出:シラバス、授業シート(3点)・OST・試験問題 ※著作権問題、授業アンケート(内容の検討)、教材紹介

・第1回 高等学校・高等専修学校WG2会議

日 時:平成26年9月16日 18:00~20:00

参加者:11名

議 題:1)モデルカリキュラム(模擬授業)作成の流れと実施計画:事業計画書(資料A)及び授業スケジュール(資料B)を確認、成果物のイメージと実証実験、2)自動車業界へのイメージと仕事に対するモチベーション:高校生(中学生)がどのように理解しているのか、自動車業界に対するイメージの情報収集方法、東京工科実績、オープンキャンパス・メニューリスト、3)担当者選出

・第1回 女性の学び直し支援のための標準カリキュラム開発・実証WG3会議

日 時:平成26年9月17日 18:00~20:00

参加者:12名

議 題:1)モデルカリキュラム(模擬授業)作成の流れと実施計画:事業計画書(資料A)及び授業スケジュール(資料B)を確認、女性の学び直し支援のための標準カリキュラム、シラバス・コマシラバス、受講者アンケート、2)必要な知識・スキルの抽出:前提条件の設定、講座の構成要素抽出、講座マップの作成、3)担当者の選出:シラバス、コマシラバス、授業シート(資料C)・OST・試験問題 ※著作権問題

・第2回 高等学校・高等専修学校WG2会議

日 時:平成26年10月9日

日 18:00~20:00

参加者:10名

議 題:1)第1回 議事録の確認:WG2議事録(資料A)、2)実証実験題材について:「中学生プラグイン・ハイブリッド教室」見学報告(資料B)、中学2年生、高校1年生に対する実証実験内容(案)(資料C)、自動車業界に対するイメージの情報収集方法、3)実証実験資料制作担当者選出:シラバス、コマシラバス、授業シート、履修判定試験問題、受講者アンケート内容検討

・第2回 学び直しWG1会議

日 時:平成26年10月10日 18:00~20:00

参加者:17名

議 題:①第1回議事録確認(資料A)、②実証実験授業カリキュラム進捗状況(資料B、C、D)、③実証実験授業・アンケート作成担当者選出

・第2回 女性の学び直し支援のための標準カリキュラム開発・実証WG3会議

日 時:平成26年10月14日 18:00~20:00

参加者:12名

議 題:1)第1回 議事録確認:WG3議事録(資料B)、2)実証実験授業カリキュラム進捗状況:前回の振り返り、シラバス・コマシラバス(資料C)……調整と決定、教材とコマシラバスの整合及びコマ配分、3)実証実験授業・アンケート作成担当者選出:授業シート(3点)・OST、試験問題作成担当者選出、実証実験授業担当者選出、受講生授業アンケート作成委員選出

・第3回 学び直しWG1会議

日 時:平成26年10月30日 18:00~20:00

参加者:7名

議 題:①第1回議事録確認(資料A)、②実証実験授業カリキュラム進捗状況:シラバス案(資料

C、D)、コマシラバス案(資料C、D)、教材とコマシラバスの整合、教育内容のコマ配分再調整と担当者、③試験問題作成担当者選出・実証実験授業

・第2回 実施委員会会議

日 時:平成26年11月7日 18:00~20:00

参加者:10名

議 題:1)各WGの進捗確認:シラバス、コマシラバス作成スケジュール、実証実験スケジュール、WG会議日程 12月・1月度の確定、2)環境・エネルギーコンソーシアムの進捗と連携、3)成果物のイメージ共有:作成スケジュール、成果物イメージ(目次)、テキスト等

・第3回 女性の学び直し支援のための標準カリキュラム開発・実証WG3会議

日 時:平成26年11月17日 18:00~20:00

参加者:10名

議 題:1)第2回 議事録確認:WG3議事録(資料A)、2)実証実験授業カリキュラム進捗状況:コマシラバス・時間配分表の確認、授業シートの確認(資料C)、サブテキスト(資料D1~D3)、3)実証実験授業 準備について:受講生募集について(資料E)、実証実験授業スケジュール確認(資料E)、実証実験授業担当者確定(資料E)、実証実験授業の使用教材確認(資料B)

・第3回 高等学校・高等専修学校WG2会議

日 時:平成26年11月19日 18:00~20:00

参加者:13名

議 題:1)第2回 議事録の確認:WG2議事録、2)実証実験内容について:「コマシラバス」、授業シート、サブテキスト、実習物、3)実証実験実施計画:中学2年生・高校1年生

・第4回 学び直しWG1会議

日 時:平成26年12月9日 18:00~20:00

参加者:7名

議 題:①第3回議事録確認(資料A)、②実証実験授業カリキュラム進捗状況:全体シラバス・コマシラバス確認、各コマの授業シート確認と意見交換、各コマの授業シート確認と意見交換、各コマのサブテキスト確認と意見交換、各コマのPPT(パワーポイント)確認と意見交換、教材とコマシラバスの確認、全体の意見交換と調整、③試験問題:各担当コマより難易度別問題提出、試験問題編集纏め委員確認、④受講生アンケート確認と意見交換:実証実験授業との整合性、⑤授業担当者及び実証実験授業実施日:授業担当者

・第5回 学び直しWG1会議

日 時:平成26年12月11日 18:00~20:00

参加者:7名

議 題:①第4回議事録確認(資料A)、②実証実験授業カリキュラム進捗状況:全体シラバス・コマシラバス確認と報告、各コマの授業シート確認と報告、各コマの授業シート確認と報告、各コマのサブテキスト確認と報告、各コマのPPT(パワーポイント)確認と報告、教材とコマシラバスの確認と報告、各コマで使用する教材、全体の流れについて意見交換、③試験問題:各担当コマより難易度別問題提出、試験問題内容確認、試験問題編集纏め委員確認、④受講生アンケート確認と意見交換:実証実験授業との整合性の確認・意見交換、⑤授業担当者及び実証実験授業実施日の確認と報告:授業担当者、8コマ目確認試験及び授業後アンケート担当者、実証実験授業

・第4回 女性の学び直し支援のための標準カリキュラム開発・実証WG3会議

日 時:平成26年12月11日 18:00~20:00

参加者:10名

議 題:1)第3回 議事録確認:WG3議事録(資料A)、2)実証実験授業 資料確認:サブテキスト2の最終確認(資料B1)、日常点検指導要領確認(資料B2)、履修判定試験(資料C)・アンケートの確認(資料D)、3)実証実験授業 準備について:受講生募集状況について、準備物の確認(資料E)、当日のイメージの共有

・第4回 高等学校・高等専修学校WG2会議

日 時:平成26年12月16日 18:00~20:00

参加者:11名

議 題:1)第3回 議事録の確認、2)実証実験内容について、3)実証実験実施結果報告

・第5回 高等学校・高等専修学校WG2会議

日 時:平成27年1月20日 18:00~20:00

参加者:11名

議 題:1)第4回 議事録の確認、2)実証実験成果報告について、3)次年度に向けての課題

・第2回 環境・エネルギー分野全体合同会議

日 時:平成27年1月23日 18:00~20:00

参加者:27名(総勢65名)

議 題:1)産学官連携コンソーシアム事業説明、2)建築・土木・設備職域プロジェクト事業説明、3)自動車整備職域プロジェクト事業説明

・第6回 学び直しWG1会議

日 時:平成27年1月28日 18:00~20:00

<p>参加者:16名 議 題:①第5回議事録確認(資料A)、②受講生アンケート結果報告、③実証実験授業実施報告、④修了試験実施報告、⑤受講生アンケート結果報告、⑥授業内容(カルテ)と修了試験と相関関係、⑦全体を振り返って、⑧その他</p> <p>・第5回 女性の学び直し支援のための標準カリキュラム開発・実証WG3会議 日 時:平成27年1月29日 18:00~20:00 参加者:11名 議 題:1)第4回 議事録確認:WG3議事録(資料A)、2)実証実験授業 結果:カルテおよび試験結果(資料B)、アンケート結果(資料C)、全体の感想、3)報告書・成果物について:進捗状況の報告(資料D)</p> <p>・第3回 実施委員会会議 日 時:平成27年1月30日 18:00~20:00 参加者:8名 議 題:1)各WGの進捗確認:シラバス・コマシラバス作成スケジュール、実証実験スケジュール、WG会議日程 12月・1月度の確定、2)環境・エネルギーコンソーシアムの進捗と連携、3)成果物のイメージ共有:作成スケジュール、成果物イメージ(目次)、テキスト等、シラバス・コマシラバス、授業シート、履修判定試験問題、受講者アンケート内容検討</p> <p>・成果報告会 日 時:平成27年2月6日 15:00~17:00 参加者:16名(総勢49名) 議 題:1)事業代表者挨拶、2)文部科学省より、①平成27年度専修学校関係予算(案)について、②専門学校との連携による成長分野への人材育成・供給について、3)成果報告(①産学官連携コンソーシアム、②建築・土木・設備職域プロジェクト、③自動車整備職域プロジェクト、④電気・ ② 調査等(目的、対象、規模、手法、実施方法、結果概要等)</p>
<p>③ モデルカリキュラム基準、達成度評価、教材等作成(目的、規模、実施体制、成果物概要等)</p> <p>【目的】 全国的な標準カリキュラム等の開発にあたり、学び直しとしての2級整備士課程補完テキスト、高等学校・高等専修学校実践的職業教育テキスト、女性の学び直し支援テキストを作成する。</p> <p>【規模】 協力校委員・協力企業委員によるWG1、WG2、WG3を実施委員会の下部組織とし、実施。 WG1: 専門学校2級課程の内容を補完する標準カリキュラムの作成 ・今後の中核的専門人材に向けて2級課程(2級整備士課程)の不足を補完するカリキュラム WG2: 高等学校・高等専修学校との連携による実践的職業教育カリキュラム等の開発・実証 ・若者が自動車業界を目指すきっかけを作る体験実践型カリキュラム WG3: 女性の学び直し支援のための標準カリキュラム等の開発・実証 ・顧客の高齢化女性ユーザ増で接客女性ニーズ増。スタッフの専門知識養成カリキュラム</p> <p>【実施体制】 WG1、WG2、WG3および実施委員会で議論・決定作成。</p> <p>【成果物概要等】 WG1、WG2、WG3それぞれ実施した実証講座において、受講者から好評を得られる内容となった。 しかしながら、今後、より充実した内容を目指すにあたり、さらなる市場調査の実施とより一層の精査が必要と思われる。</p>

④ 実証等(目的、対象、規模、時期、手法、実施方法、実証結果概要等)

【目的】

見える化の一つの手法であるコマシラバスから作成される「授業シート、カルテ、カルテ解答・解説」の有用性を調べ、習得度を測る「履修判定試験」が適正であるかを検証する。

【対象・規模】

WG1: 専門学校2級課程の内容を補完する標準カリキュラムの作成

・東京工科自動車大学校生徒19名 8時間×1講座。

WG2: 高等学校・高等専修学校との連携による実践的職業教育カリキュラム等の開発・実証

・協力校: 堀越高等学校1年生10名 4時間×1講座。

WG3: 女性の学び直し支援のための標準カリキュラム等の開発・実証

・社会人・大学生12名 8時間×1講座。

【手法】

学科形式＋演習形式

【実施方法】

協力企業・協力委員からの講師派遣及び外部講師活用による実証講座の実施。

【実証結果概要等】

上記、実証講座の結果としては、受講者からのアンケート回答から知識レベルの向上、自動車業界への職業としての意識の向上、自動車業界の知識を深めたいなどの声からも3講座すべてにおいて成功といえる。

ただ、今後の課題としては、本年度は東京地域での実施であったが、これらを普及するにあたり、地域での実証を実施し、より一層の精査・検証を行うことが必要と考えられる。

⑤ 成果のとりまとめ等(成果物、報告会等)

・事業成果報告書(事業の実施内容及び分析結果)及び成果物・テキスト3点の公開、関係機関への配布

【規模】: 各500冊

【手法】: データのHPでの公開、関係者教育機関10校・関係企業・団体等300社へ郵送配布

・成果報告会の実施

【規模】: 産学官連携コンソーシアム及び建築・土木・設備職域プロジェクトとの合同開催

【手法】: 参加委員及び外部協力者への案内

(6)事業終了後の方針について(成果の活用、継続性、発展性 等)

<p>(事業成果の普及)※本事業により作成等された成果物について、個別に列記すること</p> <p>①事業報告書 【規模】:500冊 【手法】:データのHPでの公開、関係者教育機関10校、関係企業・団体等300社へ郵送配布</p> <p>②成果物テキスト(次世代自動車 基礎、自動車のエネルギー、カーコンシェルジュ講座 基礎編) 【規模】:各500冊 【手法】:関係者教育機関10校、関係企業・団体等300社へ郵送配布</p> <p>(事業成果の活用等)※上記成果物の活用方法等について、個別に列記すること</p> <p>① 専門学校2級課程の内容を補完する標準カリキュラム ・中核人材を目標とする次なる補完カリキュラム構築の基礎講座として活用する。 ・現2級整備士課程に接続する新コースカリキュラムの全体像の検討に繋げる。</p> <p>② 高等学校・高等専修学校との連携による実践的職業教育カリキュラム ・高校実施の職業教育への反映 ・自動車整備専門学校等の職業実践的な進路へ選びのガイダンス内容への反映</p> <p>③ 女性の学び直し支援のための標準カリキュラム ・自動車業界における顧客対応業務の人材養成のための講座開設に繋げる。 ・自動車業界に従事する事務職を中心としたスタッフのスキルアップにつなげる。</p>
--

(7)「女性の学び直し」に対応した取組内容等

<p>(事業実施体制、プログラム構成、環境配慮等、女性の学び直しに対応する取組内容、成果物概要等)</p> <p>【事業実施体制】 下部組織分科会として、女性の学び直し支援のための標準カリキュラム開発・実証WG3委員を女性コンサルタント、自動車ディーラー等で構成。</p> <p>【プログラム構成】</p> <p>① 女性の活躍に必要な専門知識養成カリキュラムを作成し学び直しの機会を構築する。 ② 自動車業界における女性の就業人口は多いが専門知識を教育する教育課程は専門学校のみ。 ③ 多くの女性は自動車の知識を持たず、自動車業界で仕事をしている。 ④ 業界では専門知識を持ち接客できる女性のニーズが高まっているが、専門知識修得が壁。 ⑤ 他業種で接客経験があり、自動車分野で働きたいという学び直しニーズにも応えられる。</p> <p>【環境配慮等】 顧客への安心感を与える接客業務にのみならず、自動車に関わる知識習得の第一歩となるための講座の実施。</p> <p>【取り組み内容】 社会人・大学生(内定者含む)に対し、カーコンシェルジュ講座 基礎編を実施。</p> <p>【成果物概要等】 実証講座を受講した全員の女性から、満足したとの回答が得られたと同時に「自動車業界の知識」、「自動車の構造・機能」についてもっと深く知りたいとの声があがってきた。 本講座を普及させるにあたり、地域的な特性部分(主に接客)を取り入れたものを精査・検証することが必要と考えられる。</p>
--

※事業計画書の「3. 産学官コンソーシアム又は職域プロジェクトの別」で、「女性の学び直し」対応欄にチェックを入れた場合に記入